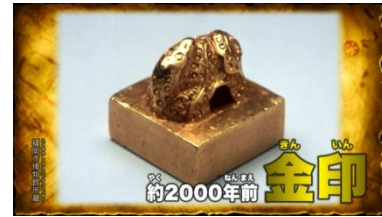


「博多の発展！港からデス」の概要

●約 2000 年前

博多港の歴史は、約 2000 年前に当時の中国の皇帝から「漢委奴国王」の金印が贈呈された頃までにさかのぼり、当時より朝鮮や中国と交流がありました。



●8 世紀頃

8 世紀頃の平安時代には、当時の中国に遣唐使を派遣し、また逆に大陸からも多くの使者をもてなすなど国際交流の拠点として賑わってきました。

「空海」は、遣唐使として唐で修業したのち、博多区にある真言宗の東長寺を日本で最初に開きました。



●12 世紀頃

その後、12 世紀頃には、平清盛が海外と貿易を始めるために、「袖の湊」といわれる、日本で最初の人工港として開発され、その後も商人の町「博多」とともににおおいに繁栄しました。当時は、日本最初の禅寺である聖福寺や博多山笠の発祥の地として有名な承天寺などが建立され、また、うどんや蕎麦、饅頭などの粉文化が伝わったことが紹介されております。



●16 世紀頃

16 世紀頃は、嶋井宗室や神谷宗湛などの博多の商人たちは遠くフィリピンやタイなどの国と貿易をして活躍していました。



●明治時代

また、その後、明治時代の幕開け後も特別貿易港に指定され、国際貿易の中枢的な港として発展してきました。



●現在

現在の博多港コンテナターミナルでは、様々な輸出入貨物を扱っております。特に生活必需品である、衣類、日用品、食品などの多くの品々は博多港を経由し我々の手元に届いております。福岡市の発展とともに貨物の取扱量も伸びてきております。



また、博多港は日本の港湾の中でもモデル港といわれるほど、最新鋭の IT システムや環境に優しいクレーンを導入している様子や、コンテナターミナル内のコンテナの在庫管理をしている、現場担当者の声なども入れており、今後ますます発展していく博多港の状況を紹介しております。